
東山防空指揮所・蛇島 報告書

令和3年6月
日本戦跡協会

概要

- 令和3年5月26日に、近畿財務局と舞鶴市のご協力を得て、舞鶴の東山防空指揮所・蛇島の戦跡の現状調査・記録を行いました。
- 舞鶴高専が調査を行っているようですが、報告書などを確認できず、報道機関の地図などを基に調査を行いました。
- 株式会社文化財サービス（京都市・伏見区）さまのご協力を得て、3D測量も実施しました。
- 従来明記されていなかった、土塁の形、扉の形状、ガソリントankのペンキ、窓枠の色など新発見がありました。
- 城郭跡についても石垣遺構の発見がありました。

3 D 測量 クレーン台座 (株式会社文化財サービス作成)

日本戦跡協会



3 D 測量 東山防空指揮所 (株式会社文化財サービス作成)

日本戦跡協会



3 D 測量 蛇島ガソリン庫 (株式会社文化財サービス作成)

日本戦跡協会



蛇島城跡に石垣を発見 (百島 純さま写真提供)



東山防空指揮所

- 米軍による爆破により土砂で埋もれている入り口が多く、土砂の中には埋蔵物がある可能性もある。
- 土砂の中にはダイナマイト等が埋もれていた例（浅川地下壕）があり、慎重に土砂除去が必要。
- 発電壕への通路が不通であり、今後の土砂除去の必要性があるが、米軍による爆破も歴史も一部。
- レンガやタイル等が地面に散乱しており、記録や保存が課題。



下記を確認

- 扉の残存（栈橋より4番目両方）
- 入り口上部の木枠がブルーの塗装
- 入口付近のコールタール
- タンク台座や壁フックの緑色塗装



用途未確認情報

- 5番目の短いL字型地下壕
- コンクリート製土管
- 2 2 番の数字（米軍？）
- 円形窪み
- ガソリン庫内正方形穴



今後の展望

- 戦争遺跡として、大変貴重な資料である。
- 東山防空指揮所・蛇島の一般公開は、見学の可能エリアを制限するなど安全面を配慮した上で今後実現可能と思われる。
- 蛇島において現状の資料と現地の縄張りなどが異なり、測量が必要と思われる。
- 東山防空指揮所は、米軍の爆破エリアの土砂を除去し発電壕エリアを発掘するか検討が必要。